

競技運営規程

2026年7月1日改訂

 主要改定箇所 2026. 4

 改定箇所 2026. 7



序文 目的

- 1 大会適用規程
- 2 大会競技役員
- 3 参加申込
- 4 チーム代表者会議
- 5 スターティングリスト (試合のチーム構成)
- 6 チームの服装、装具、カラー
- 7 試合時間
- 8 プレイヤーの交代
- 9 フィールドへの入場
- 10 試合の中断
- 11 メディカルデータ
- 12 公式試合記録
- 13 棄権・失格
- 14 サジェストションアンパイア及びビデオアンパイア
- 15 行動規範と処罰
- 16 抗議
- 17 アピールジュリー
- 18 アピールジュリー制度の運用
- 19 アンチ・ドーピング
- 20 想定外の事態
- 21 その他

APPENDICES

- 付属書1 ホッケー競技規則に優先する事項
 - 付属書2 リーグ戦での順位決定方法
 - 付属書3 シュートアウト戦
 - 付属書4 行動規範
 - 付属書5 行動規範における違反と処罰レベルガイドライン
 - 付属書6 サジェストションアンパイア及びビデオアンパイア
- 2024年度の国内大会で実施するレギュレーション一覧

序文 目的

本規程は、ホッケーの大会が公正かつ安全に滞りなく行われ、チーム関係者、観客、運営者、競技役員等の大会に関わるすべての人々がホッケー競技を通じて、心身の健全な発達、健康の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等を享受し、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進するものである。

1. 大会適用規則

- 1.1 本規程は日本国内で行われるすべての公式試合に適用される。試合は大会開始日に有効なホッケー競技規則と本競技運営規程に則って行われる。本規程の付属書による変更がある場合には、その変更を優先させ、本規程として扱う。ただし、国際大会については、本規程の適用外とする。
- 1.2 大会開催にあたり本規程を補完する大会運営規程を定めることができる。大会運営規程と本規程の定める内容が競合する場合は、大会運営規程を優先させるが、大会運営規程は、大会開始前までに主催者または共催者の承認を得なければならない。
- 1.3 チーム代表者会議でチーム代表者と TD で合意が得られた事項は本規程に優先する。
- 1.4 リーグ戦の場合の順位決定方式は付属書 2 に規定する。
- 1.5 本規程は、公益社団法人日本ホッケー協会（以下「JHA」という）のウェブサイトに公表される。本規程の改訂時には各都道府県協会および関係団体に通知される。
- 1.6 行動規範（付属書 4）は、競技に参加する者がホッケー競技への自覚と責任を持つために制定され、適用される。
- 1.7 公式試合とは、JHA、ブロック協会、都道府県協会、ホッケー・ジャパンリーグ、日本社会人ホッケー連盟、日本学生ホッケー連盟およびその傘下団体のブロック学生連盟、全国高等学校体育連盟およびその傘下団体のブロック・都道府県高等学校体育連盟が主催または共催する大会でホッケー競技規則（6人制、インドア含む）に基づき実施される試合をいう。
- 1.8 JHA が主催または共催する大会（以下、「全国大会」という）の期日、開催地はあらかじめ JHA 理事会の承認を得なければならない。

2. 大会競技役員

- 2.1 全国大会および国民体育大会ブロック大会のテクニカルデリゲート（以下、「TD」という）、アンパイアマネージャー（以下、「UM」という）は JHA が指名する。TD は本規程の定める範囲における大会運営に関わる JHA としての全権限と決定権を有する。
- 2.2 TD は大会の競技役員として JHA が指名した者の中から、各試合のアンパイア（サジェスションアンパイア、ビデオアンパイアを含む）、テクニカルオフィサー（以下、「TO」という）、ジャッジ（以下、「JG」という）を以下の条件に基づき指名する。
 - a TO、アンパイアの出身チームが行う試合に指名できない（可能な限り他の競技役員についてもこの原則が適用される）。
 - b 参加チームのプレイヤー、役員を大会の競技役員に指名することはできない。但し、6人制の大会及びマスターズジャパンカップにおける競技役員を除く
- 2.3 TD は、全参加者が行動規範を確実に遵守するようにしなければならない。そのための行動規範、関係する規程に基づく必要な措置を行う権限を有する。
- 2.4 TD は、JHA 事業本部競技運営部長の同意のもと TD 権限の全部または一部を必要な期間中、TO または UM の誰かに委譲することができる。

3. 参加申込

- 3.1 参加チームは別途定められた期日までに大会参加申込書を JHA と大会実行委員会（大会主管者）の両方に提出しなければならない。
- 3.2 大会参加申込書に記載されている者は大会参加申込書の提出により、大会運営規程等の JHA が定める規程に従うことに同意したものである。
- 3.3 すべてのプレイヤーは、1 から 99 までの数字をつけた背番号により識別され、この数字は大会を通じて同じでなくてはならない。
- 3.4 大会参加申込書には以下の項目が含まれていなくてはならない。
 - a 最大 30 名までのプレイヤーの氏名とその背番号。
 - b 監督の氏名。監督は、ヘッドコーチ等他のチームスタッフとは兼務できない。チームスタッフとは大会参加申込書に記載されている者のうちプレイヤーを除いた者を指す。
 - c プレイヤーおよびチームスタッフ全員の JHA 登録番号。
 - d ベンチに入ること希望するヘッドコーチ、アシスタントコーチ（複数名可）、フィジオセラピスト、ドクター、部長、監督代行、その他チームスタッフ等（参加申込時に登録できる最大人数については、別途大会運営規程にて定める）がいればその氏名。フィジオセラピストまたはドクターの代わりに手当とする者を登録することができる。手当とする者

は、大会開始日に20歳以上でなければならない。

- e JHA ユニフォーム規程に基づくフィールドプレイヤーのファーストおよびセカンドユニフォームの色。
 - f JHA ユニフォーム規程に基づくゴールキーパー（以下、「GK」という）のファーストおよびセカンドユニフォームの色。
- 3.5 JHA は、参加申込書に記載されているプレイヤーの大会参加資格要件（所属、年齢等）およびJHA の登録システム上の登録内容の確認をいつでも行うことができる。正当な理由がなく確認を拒否もしくは受けなかったプレイヤー及び**チームスタッフ**は、当該大会には参加できない。さらに、JHA は当該プレイヤー、**チームスタッフ**、所属チーム、関係機関に対する追加の制裁措置を行うことがある。参加申込書に記載されるプレイヤーおよび**チームスタッフ**は、大会開始時点で有効な会員証を提示できる状態にななければならない。
- 3.6 同じ会場で別の大会が同時に開催される場合、監督は別のチームの監督を兼務することはできない。
- 3.7 大会主管者（実行委員会）はチーム代表者会議までに大会参加申込書のコピーをTD に提出しなければならない。
- 3.8 大会参加申込書の記載内容の変更は、チーム代表者会議までに監督が大会主管者（実行委員会）に電子メールで、大会主管者およびJHA（info@japan-hockey.org）の両方に通知しなければならない。文書にて通知する場合は、大会主管者の指示に従い提出しなければならない。チーム代表者会議が開催されない場合は、大会最初の試合が行われる日の前日の正午を期限とする。大会主管者が別途期限を定めている場合はそれを期限とする。この期限以後の変更は認められない。
- 3.9 参加チームが出場を辞退した場合、補欠チームの参加については、主催者が決定する権限を有する。決定後、速やかに他の参加チーム、メディアに通知されなければならない。

4. チーム代表者会議

- 4.1 監督とチームの代表者の合計2名は、大会開始前にTD が開催するチーム代表者会議に出席しなければならない。2名は大会参加申込書に記載された者でなければならない。
- 4.2 監督はチーム代表者会議またはTD が指定した会議に以下のものを持参しなければならない。
- a フィールドプレイヤーとGKのファーストとセカンドユニフォームのサンプル。
 - b 試合に用いる用具（スティック、GKのヘッドギア、ハンドプロテクター、レガード、キッカーズ、フィールドプレイヤーが装着するフェイスマスク、ハンドプロテクター等の防具）。TDにより用具の点検は試合前等の他の機会に行うと決定された場合を除く。
 - c 参加者全員のJHA 会員証（紙または電子による）。TDにより会員証の確認を他の機会に行うと決定された場合を除く。
 - d JHA 行動規範確認書。（電子メールによるPDFでの提出を原則とする、また大会実施要項に下記の記載がある場合を除く）

「参加者（チーム、競技役員、大会関係者）は、（公社）日本ホッケー協会が定める諸規程を熟知し、その内容に同意の上、「行動規範確認書」を提出したものとみなします。違反した場合には、懲戒処分を受ける可能性があり、参加者は、自身の言動について責任を負うものとします。」

- 4.3 やむを得ず監督が出席できない場合は、TD の承認により代理者を出席させることができる。ただし、代理者は参加申込書に記載された者でなければならない。
- 4.4 正当な理由なく出席しなかったチームに対し、TD は制裁措置を行うことがある。
- 4.5 チーム代表者会議はTD 及び大会主管者（実行委員会）の判断に基づきオンラインによって開催される。その場合は事前にチーム代表者にオンラインで開催する旨が通知される。
- a オンラインでの開催の際に出席者は、出席者の音声と映像がTD から確認できる環境で参加しなければならない
 - b TD が事前に指示した場合を除き、試合に用いる用具及びJHA 会員証を準備する必要はない。

5. スターティングリスト（試合のチーム構成）

- 5.1 チームは試合毎に大会参加申込書にプレイヤーとして登録された最大30名の中から、最大18名までのプレイヤーを試合に出場させることができる。出場させるプレイヤーは試合毎に異なっていてよい。プレイヤーがTD によって出場停止処分を受けた場合には、その試合での出場可能プレイヤー数は出場停止処分を受けた人数分だけ少なくなる。
- 5.2 チーム代表者会議でTD が指定した方法（6人制の大会を除き、電子メールによる提出を原則とする）で指定された期限までに監督は以下を記載したスターティングリストを提出しなくてはならない。
- a 試合に先発する11名のプレイヤー。
 - b 試合開始時にチームベンチに座る7名までのプレイヤー（出場停止者がいる場合は、その氏名を記載し、「S」と印をつける）。
 - c 試合のキャプテンとGK。
 - d 試合の監督。監督がやむを得ない理由により不在の場合は、監督を代行する者の氏名。その場合は、あらかじめTD の許可を受けなければならない。監督を代行する者は、大会参加申込書に記載された者でなければならない。

- e 試合のコーチ（ヘッドコーチまたはアシスタントコーチから1名が指名される）。
 - f チーム医療スタッフ（フィジオまたはドクターの最大2名）。チーム医療スタッフが不在の場合には、手当とする者をチーム医療スタッフの代わりとして最大2名。手当とする者には、試合に出場する最大18名のプレイヤーと監督を除く者（プレイヤーを含む）を指名できるが、大会開始日に20歳以上の者でなければならない。
 - g その他、大会参加申込書に記載された**チームスタッフ**1名（役職は問わない。ただし、医療スタッフは除く）。
 - h 試合で着用するユニフォームの色。
- 5.3 スターティングリストに記載される者は、大会参加申込書に名前が記載されている者の中からのみ行うことができる。ただしTDにより、その試合への出場停止処分を受けた者は除く。
- 5.4 指名されたプレイヤーが試合開始前の練習中にプレイできない状態になった場合には、大会参加申込書記載のプレイヤーの中から変更することができる。監督はTOにこの旨を伝えなくてはならず、TOはこれを対戦相手の監督とメディアに伝える。

6. チームの服装、装具、カラー

- 6.1 TDは、各試合でのフィールドプレイヤーとGKが着用するユニフォームを指定する権限を有する。
- 6.2 試合中にプレイヤーが着用するその他の衣類は着用しているユニフォームと同じ色でなければならない。ヘッドバンド及び汗止めのリストバンドは相手チームのユニフォームと違う単色（但し蛍光色は除く）であればよい。
- 6.3 試合中にウォームアップする交代プレイヤーは、両チームのカラーとは異なる色のビブス等の服装を身につけてはならない。
- 6.4 試合を行うチームは、試合会場にファーストおよびセカンドの両方のユニフォームを持参しなければならない。また、それぞれ2セットの背番号の付いていないフィールドプレイヤー用ユニフォームと、背番号として使える素材を準備しておき、血で汚れたユニフォームを着替えるなどの事態に備えなければならない。
- 6.5 試合の間、全プレイヤーのユニフォームは揃っていて、整然としていなくてはならない。
- 6.6 フィールドプレイヤーは、
- a 試合中は常にソックスの内側で膝より下にすねあてを着用しなければならない。
 - b 試合中は常にマウスピースを着用しなければならない。ただし、ゴールキーパーは着用を推奨する。（スポーツ少年団ならびにマスターズの大会については、装着を強く推奨する。）
 - c ユニフォームの内側で外面から見えない状態であれば、体を守るための装具を装着してもよい。膝あてはソックスの外側に装着してもよい。ただし、TOによって危険と判断されるものは装着できない。
 - d TDの許可により、医学上の理由による装具を装着できる。
- 6.7 フィールド上のプレイヤーは受信装置を装着または使用してはならない。また、TOに危険と判断されるものを装着してはならない。
- 6.8 試合で使用するスティックは、競技規則に記載の仕様に適合し、JHAが認めるスティックシールが添付されていなければならない。
- 6.9 ペナルティコーナー守備時に使用できる保護用手袋の大きさは、圧縮しない状態で長さ290mm、幅180mm、厚さ110mm以内とする。
- 6.10 帽子の着用は認められない。ただし炎天下や大会に応じ、TDの事前の許可に基づき着用できる場合がある。着用可否については、大会の状況、チーム内の統一性や両チームのユニフォームの色との対称性を考慮してTDが判断する。中学生以下の大会についてはTDの許可を得ずに着用を認める（ただし、TDには状況に応じて着用を認めない権限がある）。
- 6.11 喪章はTDの事前の許可に基づき着用できる。その際はプレイヤー全員（GKを除く）が同一箇所に着用しなければならない。

7. 試合時間

- 7.1 アンパイアが試合を開始・再開し、中断・再開ごとにテクニカルオフィシャルに合図をする。
- 7.2 試合時間の管理はテクニカルオフィシャルが行い、各クォーターの終了の合図を行う責任がある。ただし、競技規則に規定された各クォーター終了時にペナルティコーナーの完遂のための**競技時間**の延長時は、アンパイアが各クォーターの終了の合図をする。
- 7.3 試合が引き分けで終了した場合に、勝者を決定する必要がある場合は、付属書3に規定するシュートアウト戦を行い、勝者を決定する。

8. プレイヤーの交代

- 8.1 交代は競技規則に従い、公式試合記録に記載されたプレイヤーの中から行う。
- 8.2 交代はTOが管理する。
- 8.3 交代でフィールドを退出したプレイヤーは直ちにチームベンチに戻らなければならない。

8.4 監督はプレイヤーが適切に交代を行うことに責任を負う。

9. フィールドへの入場

- 9.1 コーチは、試合の**競技時間中**はいかなる状況下でもフィールドに入場することはできない。ただしシュートアウト戦実施中は入場することができる。
- 9.2 ベンチに入る者は**競技**中断も含め、ベンチに着席していなければならない。ただし**TO** またはアンパイアの指示があった場合は除く。交代プレイヤーは**TO** が指定した場所でウォームアップをするためにベンチを離れることができる。医療スタッフ(手当とする者を含む)はチームベンチの端でプレイヤーを手当とするために席を離れることができる。
- 9.3 監督はベンチにいる全員の行動に対して責任をもつ。監督またはコーチはコーチングのためにコーチングエリア(設定されている場合)に入ることができる。ただし、2名以上が同時にコーチングエリアに入ることにはできない。
- 9.4 医療スタッフ(手当とする者を含む)は試合中、プレイヤーの手当の業務に専従し、**競技時間中(インターバル及びハーフタイムを含む)**にフィールド及びベンチ内においてコーチングを行うことはできない。コーチングを行っていることを**TO** が認めた場合、**TO** は監督に対して警告を行う。
- 9.5 チームベンチにいる**チームスタッフ**、プレイヤーの言動は、競技役員、アンパイア、相手チームのプレイヤーに対するものであってはならない。
- 9.6 監督が**TO** から警告を受けてもなお、チームベンチでの行動に違反があった場合、**TO** は、この行為を行った人物に対し、一時的または残りの試合時間中ベンチから退場させ、テクニカルテーブル後方またはロッカールームに止め置く権限を持つ。試合後、**TO** は**TD** に経緯を報告し、**TD** は必要に応じてさらなる制裁措置を行う権限を持つ。
- 9.7 フィールド上での負傷者(GKを除く)の治療は許されない。もしプレイヤーがフィールド上でプレイ不能となった場合、アンパイアは試合を中断し、処置が必要かどうかを判断する。ただし、医療スタッフが、医学的見地から必要と認めた場合には、アンパイアの許可無しにフィールドに入場することができる。
- a アンパイアにより処置が必要と判断された場合は、医療スタッフの中から1名と監督の最大2名がフィールドに入場することを認める。フィールドに入場している間、コーチングを行ってはならない。
- c 必要に応じてアンパイアはストレッチャーがフィールドに入場することを許可する。
- d フィールドに入場することを許可された者は、医療上の理由で動かすことが適切でない場合を除き、当該プレイヤーをフィールドの外に出さなければならない。
- 9.8 チームベンチから誰か(ストレッチャーを含む)がプレイヤーの手当のためにフィールド内に入場した場合には、
- a そのプレイヤーがフィールドプレイヤーである場合は、そのプレイヤーはフィールドを出てから**競技時間**で2分以上、チームベンチエリアに留まらなくてはならない。
- b 2分間の計測は、**TO** が行う。
- c そのプレイヤーに対する交代はホッケー競技規則に基づき認められる。
- d ペナルティコーナーまたはペナルティストローク(リファールが行われた場合も含む)の直前に負傷したGKがフィールド内で手当を受けたとしても、そのGKはフィールドから離れる必要はない。
- 9.9 フィールドが血液で汚れた場合には、抗生物質耐性菌に対して効果的な非酸性表面洗浄剤を使って直ちに洗浄を行う。これがない場合には、80%アルコール溶液を使用する。この洗浄作業中は試合を中断する。
- 9.10 フィールド内で給水および摂食してはならない。試合中断中を含め、試合中に摂食するプレイヤーはフィールドを出なくてはならない。GKはゴール直近のフィールドから出入りしてよい。
- 9.11 **チームスタッフ**とプレイヤーはハーフタイムの間、**TO** の許可によりフィールド周辺の競技エリアから離れることができる。
- 9.12 **TD** の指示があった場合は、すべてのプレイヤーと**チームスタッフ**は試合終了後にミックゾーンを通過しなければならない。
- 9.13 コーチングはチームベンチ、コーチングエリアまたは競技場の指定されたエリアから**監督またはコーチ**のみできる。

10. 試合の中断

- 10.1 アンパイアまたは**TO** が天候、フィールドのコンディション等の理由により試合を中断した場合には、以下の条件に基づきできるだけ速やかに試合を再開するが、同じフィールド、同日とは限らない。
- a 試合は規定の**競技時間**を完了させなくてはならない。再開時のスコアは中断した時点のものとする。
- b 再開時には試合の中断はなかったもの見なし、8.に規定されるプレイヤー交代手順が適用される。

11. メディカルデータ

- 11.1 JHAは、大会中の怪我に関する情報を収集することができる。これは、プレイヤーの安全と健康のために行われる。
- 11.2 チームは情報収集に協力するものとする。集められた情報は統計的に処理される。

12. 公式試合記録

- 12.1 試合が終了した時点で公式試合記録がテクニカルテーブルで作成される。これは試合の要約であり、プレイヤー全員と**チームスタッフ**、試合に指名された競技役員全員の氏名と試合結果を含む主要な統計値が記録される。
- 12.2 両チームの監督は抗議を行う場合でも試合終了後10分以内に公式試合記録に署名しなくてはならない。
- 12.3 試合の競技役員は、両チームの監督が署名した公式試合記録に署名しなくてはならない。
- 12.4 全員の署名が完了した後の記録の修正はできない。ただし、全員の署名完了後に記録内容の明らかな誤りが発見された場合は、両チームの監督、TD、TO、アンパイアの6名全員の合意に基づきTDが修正できる。その際は、特記事項欄に修正内容、修正日時を補記する。合意は口頭（電話）で求めることができる。

13. 棄権・失格

- 13.1 リーグ戦の場合
 - a 公認される事由なく試合を棄権したチーム、試合拒否ないし試合を終了させることを拒否したチーム、公式試合記録への署名を試合終了後10分以内に完了しなかったチームは、大会を棄権したものと見なす。
 - b チームが上記の理由により棄権となった場合、
 - i それまでにチームが行ったすべての試合、およびこれから行う予定だった試合について0-5の敗戦と記録される。
 - ii そのチームは失格とし、大会での順位は付与されない。
 - iii そのチームが所属するリーグ内の全チームの試合結果が修正されて、順位が決定される。
 - iv そのチームが行った試合のチーム記録（13.1.b iの得点記録を除く）とプレイヤーの個人記録は有効となる。
- 13.2 トーナメント戦の場合
 - a 公認される事由なく試合を棄権したチーム、試合拒否ないし試合を終了させることを拒否したチーム、公式試合記録への署名を試合終了後10分以内に完了しなかったチームは、大会を棄権したものと見なす。
 - b チームが上記の理由により棄権となった場合
 - i チームはその試合において0-5の敗戦とする。
 - ii チームは失格とし、大会での順位は付与されない。
 - iii チームのそれまでの試合のチーム成績および個人記録は保持される。
- 13.3 棄権が発生したタイミングに応じてTDは大会における順位決定方法を定める権限を有する。
- 13.4 JHAは棄権したチームに対し更なる処罰を科す権限を有する。
- 13.5 不可抗力の事象によって、試合を実施または完了できない場合、チームは棄権したものとみなされない
- 13.6 不可抗力の事象とは、予測不可能で避けがたく、チームによって回避不可能な事象であり以下を含むが、これらに限定されない。
 - a 自然災害（火事、爆発、地震、干ばつ、高潮、洪水など）。
 - b 戦争、侵略、敵対国家の行為等。
 - c 暴動、騒動、ストライキ、ロックアウト等
 - d テロ行為；
 - e 政府または政府当局の行為（法令、条例による移動制限等）。
 - f コロナウイルス感染拡大防止に関連する、JHA、大会組織委員会、自治体による規制（大会運営規程に明記されてる）

14. サジェスションアンパイア及びビデオアンパイア

- 14.1 サジェスションアンパイア及びビデオアンパイア制度の運用方法については付属書6に規定する。

15. 行動規範と処罰

- 15.1 JHA行動規範はJHAが主催または共催する大会の競技役員を含めたすべての参加者に適用される。TDは、大会期間中の競技役員の言動に責任を負う。監督は、大会期間中の**チームスタッフ**、プレイヤーの言動に責任を負う。
- 15.2 本規程の付属書4で行動規範およびこれに関連するガイドラインを規定する。
- 15.3 出場停止期間の決定については、大会終了までの残りの試合に限る必要はなく、大会終了後の試合を含んだ出場停止処分を科すことができる。
- 15.4 出場停止処分を受けた者は、出場停止処分を受けた試合が終了するまで、フィールド、テクニカルエリア（チームベンチ、ビデオタワーを含む）に立ち入ることはできない。

16. 抗議

- 16.1 試合終了後またはシュートアウト戦の後に試合に関する抗議を行う場合、監督は、
 - a 公式試合記録に署名する際に、署名のすぐ下に抗議の意向を直ちに記入しなくてはならない。
 - b 抗議理由を文書にして試合終了またはシュートアウト戦終了後、30分以内にTOに提出しなくてはならない。
 - c 同時に5万円をTOに供託しなければならない。
- 16.2 抗議が行われた場合、TOは直ちにTDに報告しなくてはならない。

- 16.3 本規程の内容にかかわらず、試合中の判定に関する抗議は行うべきではないし、TDによって考慮されない可能性がある。
- 16.4 チームは大会期間中のTDの決定（16.1に基づく抗議に対する裁定を除く）ないし本規程の適用についてTDに抗議を行うことができる。その場合、監督は、
- 抗議理由を文書にしたものを抗議の対象となる通知や公表が行われてから30分以内にTDに提出しなくてはならない。
 - 抗議文書と同時に5万円をTDに供託しなければならない。
- 16.5 TDは抗議の提出から2時間以内に決定を下し、公表しなくてはならない。参加資格に関する疑義で調査が必要な場合は、決定を保留できる。TDは決定直後に、抗議を行った監督に決定内容を直接伝えることが望ましい。
- 16.6 監督は、TDが抗議に対する決定内容を伝える機会を作らなくてはならない。
- 16.7 本規程の抗議手順が完全に遵守されなかった場合、抗議は却下される。
- 16.8 抗議が正当なものと認められた場合には供託金は返還される。抗議が認められなかった場合でも、大会後のJHA事業本部競技運営部の検証や新規認定事項に基づき、JHA事業本部競技運営部長は供託金の全部または一部を後日返還することがある。
- 16.9 抗議が行われた場合、TDは経緯と決定内容についてJHA事業本部競技運営部長に速やかに報告しなければならない。
- 16.10 抗議が行なわれた場合
- 当該試合終了後に予定されている表彰式、式典等は試合終了時点の結果に従い実施される。
 - 抗議を行っているチームは大会主催者の指示に従うこと。
 - 抗議が認められた場合、決定内容に従い後日改めて表彰等が行われることがある。

17. アピールジュリー

- 17.1 アピールジュリーは日本国内では設置しない。

18. アピールジュリー制度の運用

- 18.1 アピールジュリー制度は日本国内では採用しない。

19. アンチ・ドーピング

- 19.1 ドーピング検査は、大会開始時点で施行されている日本アンチ・ドーピング規程に基づいて行われる。
- 19.2 すべての公式試合がドーピング検査の対象となる。
- 19.3 すべてのプレイヤーは試合後、ドーピング検査の対象となりえる。これには試合時間を通じてチームベンチにいたプレイヤーも含まれる。大会で1名のプレイヤーが2回以上のドーピング検査の対象となることがある。
- 19.4 検査対象に選ばれたプレイヤーは、基準に合致する尿または血液検体を提出する前にシャワー、バス、アイスバス等に入ってはならない。

20. 想定外の事態

- 20.1 本規程に記されていない事態が生じた場合、TDは必要な処置を決定する権限を有する。
- 20.2 TDの決定（16.1に基づく抗議に対する決定を除く）により影響を受けたチームが抗議をする場合には、16.4に決められた手順で行わなくてはならない。

21. その他

- 21.1 大会会場には自動体外式除細動器（AED）を設置しなければならない。
- 21.2 TDの許可により、サイドラインから2m以上離れたチームベンチ前にコーチングエリアを設置することができる。
- 21.3 6人制、インドアの試合による大会にも本競技運営規程が適用されるが、チームエントリー人数等の変更箇所は大会運営規程に記載する。
- 21.4 1.2で定める大会運営規程は本規程からの変更および追加事項のみを記載したものを大会運営規程として定めることを推奨する。
- 21.5 本規程は、国際ホッケー連盟の競技運営規程（2023年10月改定）に基づき作成されたものである。国際ホッケー連盟が行う規程の変更や国内の状況を踏まえてJHAは本規程を適宜変更する。その際は、1.5に基づき公表される。
- 21.6 本規程は、2026年4月1日に改定され効力を有する。

付属書1 ホッケー競技規則に優先する項目

付属書1に規定する以下の項目は、ホッケー競技規則に優先する。

1. チームキャプテン

1.1 キャプテンはアームバンドかそれに類するものを上腕部、肩、ソックスの上部のいずれかに身につけなければならない。アームバンドかそれに類するものは、単色のはっきりと認識の出来る色（黒以外）でなければならない

2. 試合時間

- 2.1 試合は、15分間の4クォーターと10分間のハーフタイムからなる（クォーター制）。ただし、ハーフタイムの時間は、大会運営規程で変更して良い。クォーター制の実施方法は下記のとおりとする。
- a 試合は、15分間の4クォーターからなる。
 - b 第1クォーターと第3クォーターの終了後に2分間のインターバルを設ける。その間は、チームはフィールドから離れてはならない。チームの準備ができていなくても、2分経過と同時に試合を再開する。プレイヤーから見える位置に時間の経過が明示される設備（デジタルタイマー等）が設置されなければならない。タイマーがない場合は、審判員またはTOから**競技再開時間**が近づいていることを適切なタイミングでチームに伝える。
 - c 第2クォーター終了後に10分間のハーフタイムを設ける。その間、チームはTOの許可によりフィールドおよびテクニカルエリアを離れても良い。チームの準備ができていなくても、10分経過と同時に試合を再開する。プレイヤーから見える位置に時間の経過が明示される設備（デジタルタイマー等）が設置されなければならない。タイマーがない場合は、審判員またはTOから**競技再開時間**が近づいていることを適切なタイミングでチームに伝える。
 - d 第1クォーターでセンターパスを行ったチームが第2クォーターのセンターパスを行う。第1クォーターでセンターパスを行わなかったチームが第3クォーターと第4クォーターのセンターパスを行う。
 - e 各クォーター終了時間は、ペナルティコーナー、引き続いてのペナルティコーナーおよびペナルティストロークを完遂するために引き延ばされる。
 - f ペナルティコーナーが与えられたとき、**競技時間**は停止され、ペナルティコーナーの準備のために40秒間（リファールが行われた場合を除く）が与えられる。ペナルティコーナーの開始の際はアンパイアが笛を吹き、この合図をもって**競技時間**の計時を再開する。両チームの準備ができていれば40秒経過を待たずにアンパイアは笛を吹いてペナルティコーナーの開始の合図を行う。
 - g 連続して与えられたペナルティコーナーとリファールが行われた後のペナルティコーナー時には**競技時間**は停止されるが、チームに40秒間を与えられたものではなく、アンパイアはできるだけ速やかにペナルティコーナーを開始しなければならない。
 - h 上記f、gにおける時間停止は、大会の規模や試合の種類に応じて採用しなくても良い（ノンストップ方式）。また、TDは試合ごとに採否を変更する権限を有する。ただし、採否についてはチーム代表者会議までに決定され、参加チームに通知されなければならない。（原則として、大会実施要項に「ストップ方式」又は「ノンストップ方式」を記載することを推奨する。予選リーグはノンストップ方式、決勝トーナメントはストップ方式といった大会内での使い分けも可能とする。）

3. グリーンカード（2分間の退場）

- 3.1 反則を犯したプレイヤーは警告され、さらに競技時間中に2分間の退場処分が科せられる（グリーンカードで指示される）
- a 退場の間、チームは1名少ないプレイヤー数で試合を行う。
 - b フィールドプレイヤーにグリーンカードを提示する場合、アンパイアは試合を止め（時間を止めなくてもよい）、カードを提示する。時間を止めた場合は、カード提示後直ちに再開する。
 - c GKにグリーンカードを提示する場合、アンパイアは時計を止め、そのプレイヤーがフィールドから出た直後に再開する。
 - d カードを提示されたプレイヤーは直ちにフィールドから退場しなければならない。指定された場所に移動する途中でプレイを妨害した場合には、アンパイアは競技規則に沿って罰則を追加する。
 - e 退場時間は、プレイヤーが指定された場所に着席した時点から計時する。プレイヤーが指定された場所に着席中に、さらにグリーンカードを提示された場合、3.1で規定された時間に追加され、最初の出場停止の終了後直ちに追加された2分の計測を開始する。
 - f 退場時間の管理はTOが行う。
 - g プレイヤーは、TOが退場時間の完了を告げた時にプレイを再開することが許される。
 - h 退場者がGKであった場合は、TOが一時退場時間の終了をアンパイアに伝達する。アンパイアはその直後のプレイが

止まった時に時計を止め、当該プレイヤーがフィールドに戻る時間を与える。

4. イエローカード（一時退場）

- 4.1 反則を犯したプレイヤーは、競技時間中に最低5分間の退場処分が科せられる（イエローカードで指示される）。
 - a 退場時間の長さはカードを提示したアンパイアから TO に伝えられる。
 - b 退場の間、チームは1名少ないプレイヤー数で試合を行う。
 - c フィールドプレイヤーにイエローカード提示する場合、アンパイアは試合を止め（時間を止めなくてもよい）、カードを提示する。時間を止めた場合は、カード提示後直ちに再開する。
 - d GK にイエローカードを提示する場合、アンパイアは時計を止め、そのプレイヤーがフィールドから出た直後に再開する。
 - e カードを提示されたプレイヤーは直ちにフィールドから退場しなければならない。指定された場所に移動する途中でプレイを妨害した場合には、アンパイアは競技規則に沿って罰則を追加する。
 - f 退場時間は、プレイヤーが指定された場所に着席した時点から計時する。プレイヤーが指定された場所に着席中に、さらにイエローカードを提示された場合、3.1 または上記 a で最初に示された時間に追加され、最初の出場停止の終了後直ちに追加された時間の計測を開始する。
 - g 退場時間の管理は TO が行う。
 - h プレイヤーは、TO が退場時間の完了を告げた時にプレイを再開することが許される。
 - i 退場者が GK であった場合は、TO が一時出場停止時間の終了をアンパイアに伝達する。アンパイアはその直後のプレイが止まった時に時計を止め、当該プレイヤーがフィールドに戻る時間を与える。

5. ペナルティコーナークロック

- 5.1 ペナルティコーナーの判定が下された時点から 40 秒以内にペナルティコーナーを再開しなければならない。
- 5.2 ペナルティコーナーが与えられたとき上記 2.1 f. に基づき競技時間は 40 秒間停止される（守備側プレイヤーのフェイスマスク、保護用グローブ、膝あて等の着用時間として）。すべての守備側プレイヤーは顔面または頭部全体を保護するフェイスマスクを着用し、**ホッケー競技規則 13.3 に定める最初のシュートが行われるまで外してはならない。最初のシュートが行われる前に外した場合は、再びペナルティコーナーが与えられる。**アンパイアは両チームに 40 秒の経過が近づいていることを必要に応じて伝える。40 秒経過時にアンパイアは笛を吹いてペナルティコーナーの開始を合図する。両チームの準備ができていれば、40 秒経過前であっても笛を吹いてペナルティコーナーの開始を合図する。笛の合図により**競技時間**の計測が再開される。
もし、40 秒経過時に準備が出来ていない場合、アンパイアはその理由を以下より判断する：
 - a 守備側プレイヤーのフェイスマスクなどの防具を探す目的等、安全を優先するための行為で有った場合。アンパイアは安全を優先するために、保護具の着用通常よりも時間がかかることを許容しなければならず、個人的罰則を適用すべきではない
 - b 守備側プレイヤーが遅延を目的として故意にフェイスマスクの着用を遅らせていた場合。アンパイアは遅延行為としてみなし、当該プレイヤーに個人的罰則を科す（グリーンカード）。たび重なる遅延行為には更に重い個人的罰則を科す（イエローカード）。
- 5.3 遅延行為による個人的罰則が守備側プレイヤーに与えられた場合は、そのペナルティコーナーおよびその後の連続して実施されるペナルティコーナーは、1 人少ない人数で守ることになる。もし当該プレイヤーが守備側の GK の場合は、そのペナルティコーナーは 1 人少ない人数で守ることになるが、個人的罰則は、他の守備側プレイヤーに科す（守備側チームが罰則を受けるプレイヤーを守備についているフィールドプレイヤーの中から選択できる）。
- 5.4 ペナルティコーナーの完遂の前に守備側プレイヤーが意図的にフェイスマスクを外した場合、攻撃側に再びペナルティコーナーが与えられる。
- 5.5 攻撃側プレイヤーによる遅延行為の場合、アンパイアは当該プレイヤーに**個人的罰則を科す（グリーンカード）、守備側にフリーヒットを与える。**同じプレイヤーのたび重なる遅延行為には更に重い個人的罰則を科す（イエローカード）。
- 5.6 本項目における判定についてはチームリファールの対象外とする。

付属書2 リーグ戦での順位決定方法

1. リーグ戦での順位決定方法

1.1 各試合について次のポイントが付与される。

- － 勝者に3ポイント
- － 引き分けた場合には両チームに1ポイント
- － 敗者に0ポイント

1.2 リーグ戦終了時に、獲得したポイント数が最も多いチームから順に上位とする。

1.3 2チーム以上のチームのポイント数が同じ場合には、勝ち試合数が多い順に上位とする。

1.4 1.3でも2チーム以上のチームが同位の場合には、得失点差の多い順に上位とする。

1.5 1.4でも2チーム以上のチームが同位の場合には、得点数の多い順に上位とする。

1.6 1.5でも2チームが同位の場合には、この同位チーム同士の試合の勝ちチームを上位とする。

1.7 1.5でも3チーム以上が同位の場合には、同位チームだけの試合結果に基づき、1.1から1.6までを適用して順位を決定する。

1.8 1.7でも2チームが同位である場合には、これらチームによるシュートアウト戦により順位を決定する。

1.9 1.7でも3チーム以上が同位の場合には、それらのチームによりリーグ戦の試合順序と同じ順序でシュートアウト戦を行う。ただし各チームのシュートアウト数は5回のみとする。

1.10 1.9により、シュートアウト戦の結果だけに基づいてランキングが決定される。1回の対戦において勝者に3ポイント、引き分けには両チームに1ポイント、敗者には0ポイントを付与する。

1.11 1.10でも同位である場合には、シュートアウト戦で記録されたゴール数に1.3から1.7を適用して順位を決定する。

1.12 1.11でもなお3チーム以上が同位である場合には、各チームの順位が決定するまで同じ過程をくりかえす。再度のシュートアウト戦が必要な場合には、TDが対戦順序を決めるくじ引きを行う。

付属書3 シュートアウト戦

シュートアウト戦では、両チームの5名ずつのプレイヤーが交代で相手チームの守備者と1対1のシュートアウトを行う。以下の競技規則と実施手順に基づき実施される。

- 1 試合終了後にシュートアウト戦を行う場合は、試合終了後5分間以内に開始しなくてはならない。
- 2 両チームの監督は公式試合記録用紙に記載されているプレイヤーの中から、攻撃を行う5名のプレイヤーと守備を行う1名のプレイヤーを指名する。守備を行うプレイヤーが攻撃を行うプレイヤーを兼ねても良い。下記に規定する場合を除き、シュートアウト戦でのプレイヤー交代は認められない。(攻撃の順番を予め申告する必要はない)
- 3 シュートアウト戦実施時にTDより出場停止処分を受けているプレイヤーや試合終了後に続けて行われるシュートアウト戦の当該試合でレッドカード処分を受けているプレイヤーは参加できない。試合終了時にグリーンカードやイエローカードで退場処分中のプレイヤーは参加することができる。
- 4 TDは施設等の状況を考慮して時間計測方法を決定する。必要に応じてタイマーをフィールド内に設置してもよい。
- 5 TDは使用するゴールを決定する。
- 6 コイントスによって、先攻か後攻を決定する。
- 7 試合終了後に続けて行われるシュートアウト戦の当該試合でレッドカード処分を受けているプレイヤーを除き、スターティングリストに記載されている者はハーフライン近傍のフィールドに入ることができる。
- 8 GKまたは守備者はサークル外のバックラインの外で待機しても良い。
- 9 シュートアウトを行うプレイヤーと守備者のみが23mエリア内に入ることができる。
- 10 攻撃を行うプレイヤーで守備も行う場合は、そのプレイヤーの防具の取り外しや装着のための適切な時間が与えられる
- 11 両チーム5名のシューターが交互にシュートアウトを行い合計10回のシュートアウトが行われる。
- 12 シュートアウトの実施方法は下記のとおりとする。
 - a. GKまたは守備を行うプレイヤーはゴールポスト間のゴールライン上またはゴールラインの後ろに位置する。
 - b. ボールをゴールの中心から最も近い23mライン上に置く。(23mラインの中心)
 - c. 攻撃を行うプレイヤーは23mエリア外のボールの近くに位置する。
 - d. アンパイアが笛を吹く。
 - e. テクニカルテーブルにいる競技役員が計時を開始する。(またはTDによって決められた方法で計時を開始する)
 - f. 両プレイヤーはどの方向に動いてもよい。
 - g. シューター又はGKまたは守備を行うプレイヤーが、アンパイアが笛を吹く前にプレイを開始した場合、シュートアウトはやり直しとなる
 - h. シュートアウト戦は次の該当する場合に終了する。
 - i. 開始の合図から8秒が経過したとき
 - ii. ゴールとなったとき
 - iii. 攻撃するプレイヤーが反則したとき
 - iv. GKまたは守備するプレイヤーがサークル内外で故意でない反則をしたとき。この場合は同じプレイヤーにより再びシュートアウトが行われる。
 - v. GKまたは守備するプレイヤーがサークル内外で故意の反則をしたとき。この場合はペナルティストロークがあたえられる。
 - vi. ボールがバックラインかサイドラインを越えたとき。GKまたは守備するプレイヤーが故意にバックラインを越えるようにボールをプレイすることは許される。
- 13 PSが与えられた時は、
 - a. 17、18、19項に基づき公式試合記録に記載されているプレイヤーがPSの攻撃または守備を行うことができる。
 - b. スティックが規則上の仕様に適していない場合を除き、PSが与えられてから完遂するまでの間に、スティックを交換してはならない。
- 14 得点の多いチームが勝者となる。たとえ10名のプレイヤー全員がシュートアウトを終了していなくても、勝敗が決まった時点でシュートアウト戦は打ち切られる。
- 15 シュートアウト戦実施中にイエローカード、レッドカードを提示されたプレイヤーは退場となるが、グリーンカードでは退場とならない。
- 16 シュートアウト戦実施中にイエローカードまたはレッドカードが提示された場合
 - a. 当該プレイヤーはその後のシュートアウト戦に参加することができずGKまたは守備を行うプレイヤー以外は交代できない。
 - b. GKまたは守備を行うプレイヤーに対する交代はそのシュートアウト戦に参加している5名の攻撃するプレイヤーの中からのみ許される。交代プレイヤーは交代しようとするGKまたは守備を行っていたプレイヤーと同様の防具の装

着のための適切な時間が与えられる。そのプレイヤーが自分の攻撃を行うときは防具の取り外しに適切な時間が与えられる。その後守備を行うために防具を装着する時にも適切な時間が与えられる。

- c. 退場となったプレイヤーが行うことになっていたシュートアウトは実施されずに無得点とされるが、退場時に既に得点となっているものについては、有効とする。
- 17 シュートアウト戦実施中に GK または守備するプレイヤーがプレイ不能となった場合は、退場処分となっているプレイヤー以外の公式試合記録に記載されているプレイヤーの中から交代させることができる。交代プレイヤーは交代しようとする GK または守備を行っていたプレイヤーと同様の防具の装着のための適切な時間が与えられる。交代プレイヤーを5名のシューターから選ぶこともでき、その際は自分の攻撃を行うときは防具の取り外しに適切な時間が与えられる。その後守備を行うために防具を装着する時にも適切な時間が与えられる。
- 18 シュートアウト戦実施中にシューターがプレイ不能となった場合は、退場処分となっているプレイヤー以外の公式試合記録に記載されているプレイヤーの中から交代させることができる。
- 19 プレイ不能となり交代されたプレイヤーはそれ以降のシュートアウト戦に参加できない。
- 20 両チーム5名によるシュートアウトが終了した時点でゴール数が同じだった場合は
 - a. 同じプレイヤーにより両チーム5回のシュートアウトを行う第2シリーズを実施する。
 - b. 攻撃を行う順番は第1シリーズと同じでなくてよく、シュートアウトごとに監督が指名する。
 - c. 先攻と後攻を入れ替える。
 - d. 同数のシュートアウトを行った時、どちらかのチームがゴール数を上回っていた場合はそのチームを勝者としシュートアウト戦は終了する。
- 21 第2シリーズ終了時点でもゴール数が同じであった場合、同じプレイヤーによる両チーム5回の新たなシリーズを行う。
 - a. 攻撃を行う順番は前のシリーズと同じでなくてよく、シュートアウトごとに監督が指名する。
 - b. 先攻と後攻を入れ替える。
- 22 20に定める新たなシリーズ終了時点でもゴール数が同じであった場合は、更に新たなシリーズを繰り返す。その際シリーズ毎に先攻と後攻を入れ替える。
- 23 TOは、シュートアウト戦の5回(6人制、インドアの場合は3回)の攻撃を行う各シリーズにおいて、同一シリーズで同一プレイヤーが2回目のシュートアウトの攻撃(ペナルティストロークは除く)を行おうとしていると気が付いた場合には、注意を与えることができる。ただし、適正な攻撃順序の遵守はTOでなくチームの監督に責任がある。
- 24 同一シリーズ内に同一プレイヤーが2回以上の攻撃を行っていたことが、攻撃実施後に相手チームまたは当該アンパイア及びTOにより指摘された場合、TOは攻撃結果を無得点に修正する(当該シュートアウトが無得点の場合は無得点のまま)。この修正は次のシュートアウトが開始されるまで可能とし、次のシュートアウトの開始の笛が吹かれた時点で修正することはできなくなる。同一プレイヤーが2回以上の攻撃を行ったシュートアウトが成功し、それが勝敗を決定した最後のシュートアウトであった場合は、両チームの監督が公式記録用紙にサインを完了する時点まで指摘が可能とし、修正する場合は、結果を修正した時点の状態からシュートアウト戦を再開する。期限を過ぎてからの上記に関する指摘は受け付けない。
- 25 上記24の指摘以降のシリーズでは、同一シリーズで2回以上の攻撃を行ったプレイヤーが行うことになっていたシュートアウトは実施されずに無得点とされるが、既に得点となっているものについては有効とする。
- 26 本規程の規定事項を除き、ホッケー競技規則が適用される

付属書4 行動規範

- 1 JHA は、日本国内におけるホッケーの試合が公正かつ安全に行われるための大会運営およびホッケーをプレイすることに関するすべての権限を有する。したがってホッケー競技に関わる者は、JHA の定める規程と指示を遵守することに合意するものとする。
- 2 行動規範はJHA が主催または共催する大会およびJHA が認定した全試合の参加者に適用される。
- 3 以下が参加者と見なされる。
 - a 参加チームのチームメンバーと**チームスタッフ**。これにはプレイヤー、監督、コーチ、テクニカルスタッフを含むコーチングスタッフ、医療担当者が含まれる。
 - b 全ての競技役員。これにはJHA 代表、TD、TO、JG、UM、アンパイア、メディア担当者、医療担当者、JHA または実行委員会が指名する役員が含まれる。
 - c 実行委員会委員。
- 4 行動規範は大会に参加する者が、ホッケー競技の安全性の向上と振興のための責任と自覚を持つために制定される。
- 5 すべての参加者は自らの行動と態度に責任を持ち、自らの言動の正当性が説明できなければならない。
- 6 大会に参加するチームのプレイヤーと**チームスタッフ**に必要な指示を行うのは監督の責務である。JHA が定める規程に違反した場合は、プレイヤー、**チームスタッフ**とともに監督も責任を負う。
- 7 大会中の違反行為およびJHA が定める規程等に関わる疑義は、大会開催中はTD が対応する。大会の終了後は原則としてJHA 事業本部競技運営部が対応し、必要に応じてJHA 倫理委員会で審議される。
- 8 JHA は、大会参加者が最高水準の行動と規律を保つよう努めなければならない。
- 9 大会参加者は、競技フィールド上、会場、宿舎で適切に行動しなければならない。ホッケー競技の評判を損なう行為、ホッケー競技への不信を招く行為および不正行為を行ってはならない。
- 10 以下は不適切あるいは許容されない行為と見なされる。
 - a 他の参加者、一般観衆に対する暴言、暴行、敵意
 - b アンパイアの判定や役員の決定に対して挑発的または批判的に、不適切なやり方で論争、抗議、反発すること
 - c アンパイアまたは競技役員に攻撃的な態度で向かって行くこと
 - d 罵りや無礼な発言や身振り
 - e 装備、衣服、会場の施設、備品を乱暴に扱うこと
 - f ドーピング検査官に対する暴言、暴行、敵意
- 11 監督、キャプテン、TD が指名するプレイヤーは、要請に応じてメディアとの会見に出席しなければならない。
- 12 公式発言は適正、建設的で分別があるものでなくてはならない。他のプレイヤー、アンパイア、競技役員や大会実行組織の個人を攻撃する内容であってはならない。
- 13 JHA は公式発言を以下のように定める。

発言の全部、一部または要旨が一般に公表された発言。公表された媒体（新聞、雑誌、定期刊行物、電子刊行物（インターネット、eメール、SNS等）、テレビ、ラジオ等）は問わない。
- 14 プレイヤー、**チームスタッフ**はドーピング検査官に対し暴言、暴行、敵意ある行為を行ってはならない。日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が禁止する薬物または薬物関連物質を所持したり、薬物に関する規定を犯したりしてはならない。
- 15 薬物に関する規則により処罰中のプレイヤー、**チームスタッフ**はホッケー競技に関与することはできない。
- 16 大会参加者はいかなる場合においても賭博行為を行ったり、賭博行為を誘導する行為をしたりしてはならない。これにはインターネットを通じた賭博行為、他の大会参加者との賭博行為が含まれる。
- 17 大会参加者は賭博、汚職に関わるいかなる行為も行ってはならない。（試合結果の操作、賄賂の受け取りや誘導、賭博のために内部情報を利用または提供すること等。）

付属書5 行動規範における違反と処罰レベルのガイドライン

レベル1

レベル1の違反に対する処分は、その個人に対する訓戒または（および）最低1試合の出場停止とする。

レベル1の処分対象となる行為の例

- － 他の参加者、一般観衆に対する暴言、敵意
- － アンパイアの判定または競技役員の決定に対する挑発的ないし批判的な論争、抗議、反発（試合中に、リアルタイムで撮影した映像を使用して異議を唱える行為も含む）
- － 攻撃的な態度でアンパイアまたは競技役員に向かうこと
- － アンパイアの判定に対し過剰または、複数名で囲んでアピールをすること
- － スティックやボール（及びその他の物）をプレイヤー、アンパイアまたは競技役員の付近へ不適切または危険な方法で投げること
- － プレイ中に他のプレイヤーに対し不適切または意図的な身体的接触をすること
- － 卑猥、攻撃的、侮辱的とされる無礼な発言、罵詈雑言、身ぶり、手振り
- － TOから警告を受けてもなおTOからの指示に従わない行動
- － 不適切な方法での хоккеー 装具及び服装の使用、会場の施設や設備の損壊
- － 公的な発言の場で、他のプレイヤー、アンパイア、競技役員、大会実行組織の個人に関する不公正、非建設的、不適または分別のない発言をすること
- － 要請されたメディアとの会見を欠席すること

レベル2

レベル2の違反に対する処分は、その個人に対する最低2試合の出場停止とする。

レベル2の処分対象となる行為の例

- － アンパイアに対する威嚇的ないし攻撃行為
- － 他のプレイヤー、アンパイア、競技役員、大会実行組織の個人、観客に対する負傷に至らない暴行
- － 著しく卑猥、著しく攻撃的、非常に侮辱的とされる無礼な発言、罵詈雑言、身ぶり、手振り
- － フィールド上での暴力行為
- － 人種、宗教、性別、肌色、祖先、国籍、出身民族に関する侮辱、恫喝、侮蔑、中傷の発言または身振り
- － レベル1の処分対象行為のくり返し

レベル3

レベル3の違反に対する処分は、その個人に対する最低5試合の出場停止とする。

レベル3の処罰対象となる行為の例

- － 他のプレイヤー、アンパイア、競技役員、大会実行組織の個人、観客に対する負傷を伴う暴行
- － 他のプレイヤー、アンパイア、競技役員、大会実行組織の個人、観客に対して唾等を吐きかける行為
- － レベル2の処分対象行為のくり返し
- － その他の上記に含まれていない хоккеー の精神に反し評判を貶める行為

付属書6 サジェスションアンパイア及びビデオアンパイア

1. サジェスションアンパイア及びビデオアンパイアの概要

- 1.1 サジェスションアンパイア制度とは、両方のゴール付近のフィールド外にサジェスションアンパイアを配置し、アンパイアが下した、又は、下さなかった判定に対しサジェスションアンパイアに助言を求め、参考にすることができる制度である。
- 1.2 ビデオアンパイア制度とは、試合中にリアルタイムでビデオリプレイを確認出来る装置およびビデオアンパイアを配置し、アンパイアが下した、又は、下さなかった判定に対しビデオアンパイアに助言を求め、参考にすることができる制度である。
- 1.3 チームリファール権とは、試合中のアンパイアに対して、サジェスションアンパイアやビデオアンパイアの助言を参照しアンパイアに判定の再考を要求することをチームに認めることである。
- 1.4 審判員のみがサジェスションアンパイアやビデオアンパイアに助言を求めることができる。このことをアンパイアリファールという。
- 1.5 アンパイアリファールはプレイヤー、**チームスタッフ**の抗議、アペール、圧力によって行われてはならない。規定された手順に基づく要求がなされなければならない。
- 1.6 審判員のみがリファールを行うために**競技時間**を止めることができる。サジェスションアンパイア、ビデオアンパイア、その他の競技役員は時間を止めることはできない。
- 1.7 サジェスションアンパイア制度は、大会規模、会場施設等を考慮した上で採用される日本独自の制度である。

2. 制度を適用する試合

- 2.1 サジェスションアンパイア制度とビデオアンパイア制度を同時に採用することができる。その場合でもチームは1試合に1回、チームリファールを行うことが出来る。アンパイアは、サジェスションアンパイアとビデオアンパイアの両方からのアドバイスを同時に参考にして判定を行う。
- 2.2 サジェスションアンパイアまたはビデオアンパイア制度の採用は大会運営規程またはチーム代表者会議にて事前に通知される。ただし、TDは、天候、施設、要員等の要因により、試合毎に採否を変更する権限を有する。変更する場合は、チームがスターティングリストを提出するまでにチームに通知されるものとする。

3. チームリファール

- 3.1 両チームは試合中1回のチームリファールを行える。シュートアウト戦においては、シュートアウト戦の前に行われていた試合終了時における両チームのチームリファールの結果に関わらず、両チームは改めてそれぞれ1回のチームリファールを行える。
- 3.2 得点、ペナルティストローク、ペナルティコーナーに関わる23mエリア内の判定（または判定しなかったこと）に対してのみチームリファールを行うことができる。シュートアウト戦においては、すべての判定（または判定しなかったこと）を対象にできる。カード提示に対するチームリファールはできない。
- 3.3 フィールド上にいる全てのプレイヤーがチームリファールを求めることができる。ただし、シュートアウト戦の場合は、攻撃または守備を行っているプレイヤーのみとする。（ベンチからは受け付けない。）
- 3.4 チームリファールを行いたいプレイヤーは、判定がなされた（または判定されなかった）直後に両手を使って片方の腕にもう一方の腕をまっすぐのばし「T」の字を作るゼスチャーをアンパイアに示すとともに、口頭でその意思を伝えなければならない。
- 3.5 アンパイアはプレイヤーが「T」の字を示した事を認識した場合、**競技時間**を停止する。但し対象となる判定（または判定しなかったこと）から時間が経過した後になされた要求は受け付けない。
- 3.6 **競技時間**内にチームリファールの対象となる事象が発生し、直後にクォーターの規定時間終了のホーンが鳴った場合、速やかに行われたチームリファールは受け付ける。
- 3.7 チームリファールを行うプレイヤー（1名）は20秒以内にアンパイアに対してどの判定（または判定しなかったこと）に対し、どのように判定を変更する要求かを明確に伝えなければならない。
- 3.8 20秒以内に明確な内容がアンパイアに伝えられない場合は、当初の判定（または判定されなかったこと）は変更されず、要求したチームのチームリファールは喪失する。
- 3.9 アンパイアがチームリファールを受け付ける場合は、要求の内容を確認した後「テレビスクリーン」のシグナルの後、T字のシグナルを示すことによりチームリファールであることを明確にする。
- 3.10 アンパイアは、
 - a. サジェスションアンパイア制度の場合は、当該サイドのサジェスションアンパイア及び相手アンパイアに助言を求める。
 - b. ビデオアンパイア制度の場合は、ビデオアンパイアに助言を求める。

- 3.11 サジェスションアンパイアまたはビデオアンパイアは可能な限り短い時間（60秒-90秒以内）で以下の助言を行う。
- ゴールかどうか
 - ペナルティストロークかどうか
 - ペナルティコーナーかどうか
 - シュートアウトリテイク（やり直し）かどうか
 - ノードバイス
 - 対象プレイの前後に起こった反則や状況
- 3.12 対象プレイの前後に起こった反則や状況についての助言が行われた場合には、アンパイアは最終的な判定を行う際にそれを考慮する。
- 3.13 ノードバイスとは、サジェスションアンパイアの位置から明確に確認できなかつたり、ビデオ映像に判断の根拠となる状況が映っていなかつたり、十分な解像度でなかつたり、機器の問題があり、アンパイアに有効な助言ができない場合を意味し、その場合、アンパイアによって下された当初の判定（または判定をしなかつたこと）がそのまま維持され、チームリファールは喪失しない。
- 3.14 チームリファールの維持または喪失は以下のとおりである
- a. 判定が認められた場合又は有利な判定となった場合は、維持される
 - b. ノードバイスの場合は、維持される
 - c. アンパイアの判定を変更する明確な理由がない場合は、喪失する
 - d. アンパイアがビデオ/サジェスションアンパイアの助言に同意せず、元の判定を維持した場合は、維持される
- 3.15 チームリファール後に下された判定に対して、相手チームはチームリファールを行うことはできない。
- 3.16 協議中にプレイヤーは、アンパイアの付近に近づいてはならない。この違反に対してはカードの提示による個人的罰則が適用される。
- 3.17 対象となった判定（または判定しなかつたこと）の変更の有無に関わらず、アンパイアは最終判定を明確に示さなければならない。また、ノードバイスの場合は、両チームにその旨を伝えなければならない。

4. アンパイアリファール

- 4.1 得点、ペナルティストロークに関わる判定（または判定しなかつたこと）またはフィールド内で発生した深刻な反則に対して疑義が有る場合のみアンパイアは、自分でリファールできる。シュートアウト中においてはすべての事象を対象とできる。
- 4.2 リファールはルールに基づきゴールとなったかどうか、ペナルティストロークがルールに基づき与えられたかどうか、または深刻な反則が発生していたかどうかについてのみ行われる。
- 4.3 すなわち、アンパイアは以下の場合に、リファールできる。
- a. ボールが完全にゴールラインを超えたか。
 - b. ボールがサークルの中で攻撃側のプレイヤーによって正しくプレイされたか、又は、攻撃側のプレイヤーのスティックに触れた後にゴールラインを超えたか。
 - c. ペナルティコーナー時に、攻撃側のプレイヤーによるシュートの前に、ボールが完全にサークルの外に出たか。
 - d. 得点を決めたプレイヤー又はゴールを防いだプレイヤーにより、23m エリア内で判定に関わる反則が行われたか。
 - e. 守備側のプレイヤーによるサークル内の反則で、そのことによりおそらく入っていたと思われる得点が妨げた又は故意の反則で、攻撃側のプレイヤーが実際にボールを保持したり、保持しようとしていたりしているのを妨げられたか。
 - f. 深刻な反則または危険あるいは無謀なプレーがフィールド上で行われたか（23m エリアに限られない）。
- 4.4 アンパイアリファールを行うときは、「テレビスクリーン」のシグナルを示したのちにアンパイア自身の胸に手を当てるシグナルをする。
- 4.5 サジェスションアンパイアまたはビデオアンパイアは可能な限り短い時間（60秒-90秒以内）で以下の助言を行う
- ゴールかどうか
 - ペナルティストロークかどうか
 - ノードバイス
 - 対象プレイの前後に起こった反則や状況、またはイエローカードおよびレッドカードに該当する深刻な反則があったかどうか
- 4.6 対象プレイの前後に起こった反則や状況についての助言が行われた場合には、アンパイアは最終的な判定を行う際にそれを考慮する。
- 4.7 ノードバイスとは、サジェスションアンパイアの位置から明確に確認できなかつたり、ビデオ映像に判断の根拠となる状況が映っていなかつたり、十分な解像度でなかつたり、機器の問題があつたりして、アンパイアに有効な助言ができない場合を意味し、その場合、アンパイアによって下された当初の判定（または判定をしなかつたこと）がそのまま維持される。
- 4.8 アンパイアリファール後に下された判定に対して、チームはチームリファールを行うことはできない。

- 4.9 協議中にプレイヤーは、アンパイアの付近に近づいてはならない。この違反に対してはカードの提示による個人的罰則が適用される。
- 4.10 対象となった判定（または判定しなかったこと）の変更の有無に関わらず、アンパイアは最終判定を明確に示さなければならない。また、ノーアドバイスの場合は、両チームにその旨を伝えなければならない。
- 4.11 深刻な反則とは以下を示すがこれに限られない
- a 「付属書5 行動規範における違反と処罰レベルのガイドライン」に抵触する内容
 - b ホッケー競技規則に記載されている重大な違反、身体的接触、故意の不当な行為

5. チームリファール回数の回数

- 5.1 サジェスションアンパイア/ビデオアンパイア制度を採用する試合においては、両チームはそれぞれ1回チームリファールを行うことが出来る。
- 5.2 3.16に従い、維持又は喪失される
- 5.3 シュートアウト戦においては、シュートアウト戦の前に行われていた試合終了時における両チームのチームリファールの成否に関係なく、両チームがそれぞれ1回のチームリファールを保有した状態で開始する。
- 5.4 アンパイアは、何回でもアンパイアリファールができる。

6. リファール後の再開方法

- 6.1 協議の結果、判定が変更された場合は、変更された判定に基づき試合が再開される。
- 6.2 協議を行っても判定が変更されなかった場合（ノーアドバイスを含む）は
- a 時間が停止された時がペナルティコーナー実施中以外のインプレー中だった場合、守備側のフリーヒットで試合が再開される。
 - b 時間が停止された時がアウトプレー中だった場合、時間が停止された時点の状態から試合が再開される。

7. ペナルティコーナーに関わる再開方法

- 7.1 ペナルティコーナーに関わるリファールが行われた場合は上記6に関わらず以下が適用される。
- 7.2 インプレー中に、アンパイアがペナルティコーナーを判定したが、守備側のチームリファールが行われ、その結果守備側のチームに反則がなかった場合には、15m ライン及び5mの破線の外側からブリーで再開される。この場合、リファール権は維持される。
- 7.3 ペナルティコーナー実施中にリファールが行われた場合
- a アンパイアがペナルティコーナーを判定し、守備側のチームがリファールを行った場合
 - i どちらのチームにも反則がなかった場合、ホッケー競技規則 6.5 に従いペナルティコーナーから再開される。この場合リファール権は維持される。
 - ii 守備側のチームに反則があった場合、ペナルティコーナーから再開される。この場合リファール権は喪失する。
 - iii 攻撃側のチームに反則があった場合、守備側のフリーヒットから再開される。この場合リファール権は維持される。
 - b アンパイアがペナルティコーナーを判定せず、アウトプレーになる前に攻撃側のチームがリファールを行った場合（リファールが行われる前にボールがサイドラインまたはバックラインを超えていた場合は上記6に従い再開される）
 - i どちらのチームにも反則がなかった場合、守備側のフリーヒットから再開される。この場合リファール権は喪失する。
 - ii 守備側のチームに反則があった場合、ペナルティコーナーまたはペナルティストロークから再開される。この場合リファール権は維持される。
 - iii 攻撃側のチームに反則があった場合、守備側のフリーヒットから再開される。この場合リファール権は喪失する。

8. その他

- 8.1 状況の解釈を含める最終的な判断はアンパイアが行い、サジェスションアンパイア又はビデオアンパイアは判定を下す権限を持たない。
- 8.2 その他の全ての判断はアンパイアが行う。
- 8.3 リファールのために時間が停止されている間は、プレイヤー交代できない。協議の結果、ペナルティコーナー以外の判定となった後はプレイヤー交代が可能となる。
- 8.4 シュートアウト実施中に何らかの理由でアンパイアが時間を止めたが、相手アンパイアまたはビデオ/サジェスションアンパイアから時間を止める明確な理由が無いと助言された場合、シュートアウトはリテイクとなる。

2026年度の国内大会で実施するレギュレーション一覧表

レギュレーション項目	対象となる大会・試合	実施方法・留意点
一時退場者の退場時間と再入場	国内の大会すべて	11人制は、イエローカードが提示された場合の一時退場時間は6分間か10分間（6人制は2分間以上）とする。審判員は、イエローカードを提示した後、テクニカルテーブルに向かって、5分間の場合は手を広げて片手をあげる。10分間の場合は、手を広げて両手をあげる。 中学生の11人制及すべての6人制の大会において、グリーンカードが提示された場合の一時退場時間は1分間とする。 一時退場時間が完了した時点でPC稼働中の場合は、再入場はホッケー競技規則18.8に定めるPC完了後となる。ただし、ストップ制の試合においては、PC実施中であっても規定の時間が完了時にフィールドに戻ることもできる。
一時退場者の退場時間	すべての国内の試合	グリーンカードまたはイエローカードが提示され、退場しているプレイヤーに対して、退場時間中に重ねてカードが提示された場合、その提示されたカードの時間が、元の退場時間に加算される。
サジェスションアンパイア制度、ビデオアンパイア制度のどちらからかまたはその両方を採用する。	①インターハイ：準決勝以上 ②高校選抜：準決勝以上 ③大学王座：準決勝以上 ④全日本社会人：準決勝以上 ⑤全日本学生選手権：準決勝以上 ⑥国民体育大会：全種別準決勝以上 ⑦男女全日本選手権：すべての試合 ⑧日本リーグ：すべての試合	サジェスションアンパイア制度またはビデオアンパイア制度を採用し（両制度を同時に採用する場合もあり得る）、チームにリファアラル権を与える。 「ノードバイス」時の対処方法等を含め、詳細は競技運営規程参照のこと。 対象大会、試合以外でもTDの判断により配座することができる。 ホッケー日本リーグについては、独自にビデオアンパイア制度を採用する試合を決定する。
リファアラル時等の選手交代	国内の試合すべて	リファアラルが行われた場合やPC・FS・得点に関わる疑義があり、審判が時間を停止した際は、その後判定が行われるまで選手交代ができない。判定が行われた後は競技規則に則って選手交代が行われる。 選手交代はTOが管理する。
通訳者のベンチ入り	すべての国内の試合	日本語での意思疎通ができない監督に対してチームは通訳者を行う者をベンチに入れることができる。通訳者は規定されているベンチ入りできるチーム役員に追加してベンチに入ることができる。通訳者はチーム選手に対する監督の指示内容を日本語でフィードバックすることができる。ベンチングエリアが設定されている場合は、その中で立って指示を与えることができるが、ベンチングエリアには同時に2名以上入ることはできない。80分間にはベンチから出ることはできない。通訳者は下記の項目すべてを満たしている場合に限りベンチに入ることができる。ベンチ入りにはスタディーングリストへの通訳者氏名の記載は不要であるが、毎試合、スタディーングリスト提出時までに通訳者をベンチ入りさせる旨の連絡をTOに行わなければならない。 ・大会参加申込書の送付と同時に通訳者をベンチ入りさせたい旨の連絡をTDおよび主催者に行っている。 ・TDが求める通訳者に関する情報をチーム代表者会議までにTDに提供している。 ・監督は日本語による意思疎通を行う能力を持っていない。（外国人コーチに対する通訳者のベンチ入りは不可） ・通訳者は監督が話す外国語および日本語に堪能である。 ・通訳者はJHAが発行する資格証を所持している。（種別は問わない） 通訳者は国際化の流れを鑑み、あくまでも監督の外国語による発言内容を日本語に変換して選手に伝える役割として特別にベンチ入りされるものであり、通訳者の業務を逸脱した行為（選手の手当て、監督の発言に基づかないコーチング、指導、応援、審判・相手チームへの発言等）をしてはならない。違反した場合は、TDまたはTOから退場処分を与える場合がある。言語能力等の判断はTDが行う。大会運営規程で関連する定めが別途ある場合は、それに従う。
スライディングブレイ	すべての国内の試合	スライディングを伴うブレイの結果、相手選手の身体やスティックに触れた場合、個人的罰則はイエローカードによる10分間の退場とする。2回目はレッドカードとする。スリップ等故意で無いが、結果的にスライディングを伴うブレイの形になり、相手選手の怪我を誘因してしまった場合も厳正に対処する。その際は、審判員は状況に応じた罰則内容を適用する。
上げられたボール（スクープ）	すべての国内の試合	落下地点でレシーブしようとしているプレイヤーに対し、そのボールを受け取るプレイヤーがボールに触れるまで、相手側プレイヤーはそのプレイヤーから5m以内の距離に近づいてはならない。但し、プレイヤー同士がブレイ可能範囲内に近づかないことと、インターセプト後もブレイ可能範囲内にならないこと（レシーブしようとしていた相手プレイヤーから離れた方向にインターセプトしたボールと共に動いていくこと）を条件条件として、5mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。
スターティングリストに記載する選手の人数制限について	大学王座決定戦、全日本学生選手権、全日本社会人選手権、全日本選手権	スターティングリストに記載できる選手の人数について、大学王座決定戦及び全日本学生選手権は、上限を22名とし、全日本社会人選手権、全日本選手権は、上限を18名とする。このことは、実施要項に明記して周知を図ることとする。
ペナルティコーナー後の守備者のPC用防具の取外しについて	すべての国内の試合	守備者はペナルティコーナーの終了後の再開がビハインドヒットであった場合、すべてのPC用防具を取外した後にビハインドヒットを行うことができる。これは、ビハインドヒットとなった場合、守備者にはPC用防具を取外す適切な機会が有ったものとみなされるからである。但し、PC用防具の取外しに不要に時間を消費してはならない。
ペナルティコーナー後の守備者のフェイスマスクの着用について	すべての国内の試合	ペナルティコーナー後の守備者の安全を確保することを目的として、ペナルティコーナーの守備を行うプレイヤーは、顔全体を覆うフェイスマスクを着用しなければならない。プレイヤーファーストの考え方から、フェイスマスクの着用は、40秒を超えてもカードの対象としない。